

人口と世帯

人口	昭和42年(2月末)			昭和47年(2月末)			昭和52年(2月末)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人口	2,709人	2,896人	5,605人	2,236人	2,302人	4,538人	2,059人	2,125人	4,184人
世帯数	1,244世帯			1,157世帯			1,109世帯		
転入した人	9人								
転出した人	7人								



お誕生おめでとう
ごさいます
中居谷 吉田盛幸さん
森 三女明美ちゃん
大和 兵頭茂政さん
片山政治さん
上森 三女美帆ちゃん
藤川真さん
二女忍ちゃん
京造 稲田裕さん
共栄 二男真人ちゃん
小倉 上岡茂さん
協生 長男茂樹ちゃん
龍野源七さん
岡田ミサ子さん
(70才)

明日の郷土を考える

みんな参加しました…そして3年

きまわりを守るまち

●子供の事故を防ぐ

●道路を広く美しく

●迷惑をかけない(「大切に」運動四月の目標)

ある自然や公共物などを大切に
する心が失われていきます。
さらに人と人の心のふれあいや



③よい町づくりの基礎は、よい部落づくりから
「美しく楽しい部落」—6月

よい町づくりをしよう。この運動
を略して「大切に」運動と呼ぼう



②よい家庭、よいふるさとを持つて人は決して
不良化はしない「明るい家庭」—5月

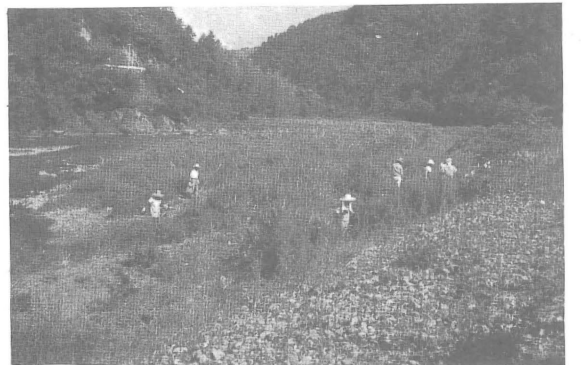
そこで、私たちはお互いにもう
一度自分の行いを振り返って見、
考えてみよう。そしてよいことを
少しずつ実践してほんとうに住み

社会の風潮は 決まっていよう
へだけ進んではいけません。した。
川や道はたへごみが捨てら
れ、水はよこれ、みんなの財産で



①このかわいい新入児を交通事故から守るために
「きまわりを守るまち」—4月

いたわり、助け
あう気持ち、連帯
感がうすれ、さ
つばつとした感
じになって行き
ます。
このような人
の心は、家庭や
地域の習慣やき
まりをおろそか
にし祖先が残し



④美しい自然を子孫にゆづるために きれいな山河—7月



⑦参加して輪を広げるために
「すこやかなからだ」—10月



⑤公共財産を守るために
「活かされる公共物」—8月

肱川町を住みよい楽しい
町にするため、これから
もみんなと一緒に考えま
しょう。
(五十二年度も)
五十二年度も、運動目
標や行事を記入した力レ
ンダーが各戸へ配られま
す。一日一日を意義のあ
る日とするため、大いに
活用して下さい。

ピシピシとたのもしく…
肱川町消防出初式は、二月十一
日、肱川中学校に団長以下二五
人の団員の出席を得て、盛大に行
われた。今年は近年にない寒波に
見舞われ、校庭には厚い氷が一面
に張る悪条件であったが、規律厳
正に行われた。当日の受章者は次
のとおり。
◎日本消防協会長表彰
肱川町消防団長 山内杜亮



⑨助けあう気持ちと感謝の気持ちで
「奉仕する活動」—12月

山林は肱川町の誇る資源であり
宝である。
町の総面積は、六三・三五平方
キロメートルであるが、その中、
山林は約七〇%を占めており、こ
れが一年間に蓄積する材積は約八
千立方メートルで、金額では一億
六千万円と推計される。
素材は用途に
より、用材、パ
ルプ材、足場材、
原木、薪炭材、
竹材に分類され
多種類に及ぶが
肱川林業の観点
から用材と原木
についてふれて
みたい。
用材とは、主に、杉、松、
建築材である。杉、松については
小丸太生産を軸として集約的な育
林が実施されつつあり、将来は優
良小丸太材の生産が期待できる。
集約育林とは適期の枝打ち、除間
伐、施肥等の施策により効率的に
優良材を生産することにあるが、

このモデルをするべく、第二次林
業構造改善事業により名荷谷の協
生地区を設定して事業をすすめて
いる。又、一部、林研グループで
実施されている人工林丸太の生産
も魅力ある施策である。
「谷は杉、中ほど松、峯は松」
と云われ、適地適木が原則である
が、松は、「町木」として制定し
いるとおり適木の一つである。こ
の松に数年前から松くい虫の被害
が現われ、今ではそれが猛威をふ
るって、町内の松林は悲惨な姿に
変わりつつあることは無念である。
伐倒駆除による対策は講じている
が、住民生活との関連もあり、薬
剤の空中散布による積極的な対策
は望みず現状では早期伐採と樹種
転換以外に良策がない。しかし、
部分的な薬剤散布による保護策は
考えている。
しいたけ原木としては、くぬぎ、
ならであるが、近年しいたけ生産
の急激な普及により原木不足が生
じつつある。しいたけは、当町の
農林産物生産額では筆頭であり、



⑪まごころをこめて、いろいろの仕事
を「たすけあう社会」—2月

これは今後とも不動であろう。こ
の原木不足に対応すべく五十二年
度から、町独自の椎茸生産対策事業
を打出し、くぬぎ林の造成(新植
補植、保育)と、しいたけ生産施
設の設置に対して補助と融資を行
いこれを助長する方針である。
くぬぎ林の造成は松くい虫対策
の樹種転換とも関連し、又、椎木
林改良、原野への植栽など可能性
にみちていることは頼もしい。
今後の林業は事業計画を基本と
して計画的な経営が必要であり、
森林組合ではそれを進めている。
又、肱川流域が久万地方に次いで
中核林業振興地域の指定を受ける
むきもあり、これが実現すれば一
段と計画事業が推進される。
素材は、くぬぎ山には、緑化木、
人間生活への保健機能など無限
の価値が秘められている。本町の
山林が「肱川林業」創設当時の基
本にのっとれば、更に、富める山
に飛躍するであろう。

- ◎町長表彰
第一分団 団員 片山政治
第二分団 団員 三井一正
第三分団 団員 上田嘉徳
第四分団 団員 谷田喜代美
第五分団 団員 松本憲
◎町長感謝状
大谷小学校
予子林小学校
◎「私達は、これを機会に、権利
と義務をわきまえ、責任ある行動
をいたします」生徒から父兄へ
の手紙。父兄はお祝いに剣舞と
詩吟を披露(2・4中学二年生70
人少年式)
◎「おら等も子供にや、負けちゃ
おれんぞ」午前中は児童、午後
は父兄の珍芸が爆笑を呼ぶ(2・
6・13各小学校学校芸会)
◎「親竹は三年生の時が、竹の子
の生みざかりです。」「なるほどね
や」30人が熱心に受講(2・7農
協の「タケノコ栽培」講習会)
◎「ナガシユウ、イウチャンナイヤ」
ヨロシユウ、イウチャンナイヤ」
第八分団方言俚語より一待望の町
誌発行、取材の苦労話に花が咲く
(2・4町誌発行式)
◎四月から定時放送が、10時と3
時30分に変わります。(2・9放送
施設検討会)
◎ツルツルの水上での訓練、試技
それでも、我らは消防人」の気概
十分、御苦労様でした。火災多発
時期となりました頑張ってください
(2・11消防出初式)
◎異状寒波と大雪襲来。水道
管の破裂鹿野川だけで50ヶ所。グ
レター、ブルによる除雪5万5
千メートル。小中学校も2回10
17日)と平日(16日)午後休校。
積雪は30・40センチメートル、気
温は零下6度を記録(2・17)
◎新町長に大野和氏、新町議に中
野一氏当選。異状寒波の中、告示
(13日)、立会演説会(17日)、投票
(20日)が行われた。選挙は民主
主義の基本であり、フェアに戦い、
フェアに終わった今、町民は、又、
ひとつとなり、目を明日に向けて
歩みたい。(2・13・20町長、町
議補選)
◎「卒業しても、ファイトを持っ
て頑張ります」12人の中学校卒業
生、母子会役員の手料理に感謝、
立派な社会人になることを誓う。
(2・26母子家庭生徒激励会)
◎「火災は人災、防がはあなた」
消防車のパレードで町内啓発。お
墓での線香、マッチによる火事が
多い。十分な注意を!(2・28火
災予防週間開始。)

月二二〇の円に